

平成29年度 ふくしまっ子元気大賞表彰 応募票

学校名	学校長名	児童生徒数	学級数	学校所在地
郡山市赤木小学校	鈴木 久	274	12	郡山市赤木町7番41号

共に育ち、高まり合って、からだづくりに取り組む 赤木の子どもたち

◆ 研究推進協力校として、体育の授業では・・

① 運動身体プログラムを自校化し活用しています



運動身体プログラムを工夫しながら取り入れたり、主運動につなげるコーディネーション・トレーニングを取り入れたりして、体づくり・動きづくりに生かしています。特に、運動身体プログラムをアレンジしたり、自校化したり、組み合わせたりすることで、技能習得へのイメージやポイント、感覚などをもたせることができます。

② ふくしまっ子体力総合プロジェクトに参加しています



運動技能や体力向上には「体幹」が重要であり、身体のバランスやリズムを意識しながら、運動に取り組むことが大切ではないかと考えています。そこで、子ども自身の運動バランスやリズム感をウェアブル検査によって理解させ、改善策を学ぶといった活動を取り入れています。具体的には、縄跳び運動を行い、腕と足がタイミングよく・リズムよく運動しているか、着地はバランスよくできているかなどを測定し、その改善にむけた補助・補強運動を知って取り組む活動です。これまで、ほとんどの子が自分の実態を知り、改善に向けた取り組みにより数値が向上しています。

③ 異学年交流や課題別学習を行っています



1年生の初めての水泳学習では、6年生が1年生一人ひとりとペアを組み、シャワー遊びや水慣れの補助をしていました。その後の水遊びでは、優しい言葉かけをしながら水に対する恐怖心を取り除き、安心して活動に取り組ませていました。また、2年生の水遊びでは、課題別のコースに別れて、楽しく浮く・もぐる・泳ぐなどの技能を体得していました。

④ タブレットを活用して学び合っています



跳び箱やマット運動、幅跳びやハードル走などで、タブレット端末を活用しながら学び合っています。例えば、ハードルを跳び越す時、どんな姿勢やリズムだったのかを友だちに撮影してもらい、運動者のもつ運動感覚と友だちが視覚で捉えた事実とのギャップを埋めるための手段として活用したりしてきました。互いに客観的に見た動きを共有することで、新たな課題が生まれ、自分の動きをよりよいものにすることができました。

⑤ 運動のエキスパートを招聘しています



郡山市のパワーアップ事業などを利用し、外部講師によるリズムダンス指導やよさこい体験授業などを行いました。子どもたちは、音楽に合わせて体を動かすことが大好きで、リズムダンス指導では、軽快なリズムに乗ってヒップホップダンスを思う存分楽しむことができました。学期1回の授業でしたが、3学期はダンス発表会を行うこととなっています。

また、ドリームキャラバン事業では、バスケットボールのプロチーム、福島ファイヤーボンズのヘッドコーチと選手が来校し、ダンクシュートやドリブルの凄さを見せてくれました。また、実際にバスケットボールを直接指導してくださり、バスケットボールの楽しさを味わうことができました。さらに、体幹をきたえる補強・補助運動も教えていただきました。

◆ 仲間と高まり合う体力づくりでは・・

① 業間運動（ランランタイム）で走力を高めています



業間の時間を利用して、全校で走力を高める運動に取り組んでいます。新体力テストで、持久力と瞬発力に課題があるため、今年度は持久走と50m走に力を注いでいます。50m走では、体育委員会の児童がスタートとゴールに立ち、計時した結果を伝えてくれます。持久走では、軽快な音楽に合わせ5分間走り続けています。走力が高まっていることを実感しています。

② 特設クラブで運動能力を高めています



年間をととして、毎日、朝と放課後に、走力を高める運動を中心に活動しています。曜日ごとに運動メニューが変わり、走力を中心に様々な動きづくりにも取り組んでいます。特設合奏部と両立しながら活動する子どもが多くなり、精神的にもたくましくなりました。夏休みの練習などでは、高校生の陸上部員とともに汗を流し、基本的な走法や運動機能を高めるトレーニングの仕方、技能体得のためのこつなどを教えてもらっています。夏季は水泳、冬季は縄跳びや球技を中心に、互いに教え合い、支え合い、高め合いながら運動能力を高めています。

③ 異学年交流・縦割遊びをしています



異学年交流による縦割り班活動を通して遊びを楽しむ活動をしています。この縦割り班は、毎日の清掃や全校遠足などでも、活動を共にします。遊びの内容は6年生が企画し、工夫しながら活動しています。また、体育委員会が企画する集会活動では、ドッジボールや鬼ごっこなど、体を思いっきり動かせる内容を中心に体力づくりに取り組んでいます。

④ 意欲を高める環境が整備されています



運動意欲を高めるための環境が整備されています。手作りの表彰台やメダル、記録証などが準備され、各種運動記録会での大きな目標となっています。どの子も自己記録をめざし、または表彰台や金・銀・銅のメダルをめざし、水泳や陸上、縄跳びなどに熱中します。各種記録会では、多くの保護者の応援もあり一段と意欲も高まります。

⑤ 運動を通して仲間づくりをめざしています



現在、クラス対抗長縄跳び記録会への練習に励んでいます。秋から冬にかけて、朝や業間の時間を利用して、どのクラスも練習に熱中しています。この取り組みは、学級力を高めるために行われています。自分たちで決めた目標に向かって、学級一丸となって取り組み、達成した喜びを全員で味わうことができること、単なるクラスメイトから一歩踏み込んだ「仲間」へと人間関係が深まっていくことねらっています。昨年度からの取り組みであり、どのクラスもこの長縄跳びを通して、仲間との関係性や絆をより深いものにしようとする姿が見られるようになっていきます。

身体づくりでも、共に育ち、高まり合う子どもたち

本校は、「体育は、知育と徳育の土台にある」との考えから「健康なからだづくり」を重点目標のひとつに掲げ、運動能力や体力の向上に取り組んでおります。

研究テーマ「共に育ち、高まり合う学びの創造～自己肯定感を育むアクティブ・ラーニング～」も踏まえ、望ましい人間関係を構築しながら、運動することの楽しさ、目標が達成できた喜び、共に学ぶことの素晴らしさを実感させようと取り組んでおります。

また、本年度は、郡山市教育委員会より「健やかな体」領域における「研究推進協力校」として公開授業も行ってきました。

都留文科大学教授の加藤 優先生を招聘しての研究会は、これからの体育授業のあり方を考えさせられる有意義な研究会となりました。

これまでの取り組みから、子どもたちは、運動との出会いから目標をもって継続的に取り組むことができるようになり、また、仲間とのかかわりにより自分の技能や技術を磨き、さらに高め、豊かにしようとする姿がみられるようになっています。

また、仲間への感謝の気持ちも、素直に表現できるようになってきています。

さらには、「支え合い」「学び合い」「高め合い」の3つの「あい」が随所に見られるようになってきました。

このように、子どもたちの学ぶ姿勢が少しずつ変容してきており嬉しさを感じています。まさに、学びの対象とじっくり向き合い、自らの問いや目標を見出しながら、今まで育んできた資質や能力を仲間とともに磨き合い、高め合う子どもの姿が、体育の授業や体力づくり活動においても見られるようになっています。

今後も継続して「心身共に健康な子ども」を育てていきたいと思っております。

